

AD ALTIORA SEMPER AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学図書館報 第15号

芋づるとネットワーク

本学教員寄贈図書の紹介

卒業論文提出直前最終チェック

「著作権」を知っていますか？

INFORMATION

編集後記

芋づるとネットワーク

山口 治彦

あれはまだ、さほど昔のことではないはずの学生時代。私は大阪のとある公立の大学で勉強しておりました。当時、苦勞して手に入れた資料のいくつかは、文字がにじんでいました。なぜか。たとえば、神戸にある某公立大学の先生がその大学院生に個人蔵書をお貸しになるとしましょう。その大学院生は、当然それをコピーする。そして、そのコピーを狙うハゲタカのような大学院生が一人や二人はいるわけです。私はそのハゲタカ氏に頼んでさらにコピーさせてもらう、というわけです。時には、さらにハイエナ氏やジャッカル氏まで介在することもある。粗悪なコピーが度重なって、字はかなり読みにくくなりますが、専門書は高くてそうそう買えませんでしたから。

もっとも、このような資料の集め方には、あまりにも明らかな限界があります。個人的なつてを芋づる式にたよるわけですから、目指す資料が手に入る確率も低く、手に入るとしてもいつ頃手に入るのかはきわめて不確かです。当時でも、他大学に対する文献複写の申請は可能でしたが、どこの大学にどのような蔵書があるのかを探し出すのは、特に単行本の場合、けっこう大変な作業でした。

しかし、10年と少し(?)たった現在では事情がかなり違います。国立情報学研究所の Webcat をネット上で開けば、どこの大学がその本を持っているのが瞬時に分かる。そこで、インター・ライブラリー・ローンを外大図書館で申し込んだら、待つこと1週間ほどで、目指す図書が借りられる。文献の複写を請求してもよい。いやいや、目指す本が絶版にならずに市場に出回っているのであれば、そして、懐具合に余裕があるのなら、海

外だろうが国内だろうが、インターネットで本屋や出版社に注文すればいいんですよね。

同様に、文献を見つけることも簡単になりました。以前はやはり「芋づる」しかなかったわけですね。読んだ文献に面白そうな参考文献が上がっていればそれを読む。そしてまた、その文献の参考文献を探す、といった具合です。このやり方の最大の欠点は、その文献が出版された時点より後に出版されたものには基本的に出会えない、というところです。そこで、たとえば、図書館にはいつている学術雑誌の最新号を定期的にチェックするなどして補完しようと努める。しかし、身近な図書館に必要な雑誌がすべて備わっているわけではありません。単行本となるとなおさらです。

このような欠点を補うのが抄録雑誌です。たとえば言語学の分野についていえば、外大の図書館には Linguistics and Language Behavior Abstracts という抄録雑誌があります。最近出版された言語学の著書や論文が主題別に挙げられ、それぞれにその要約が付いています。結構便利なのですが、電子的なデータではないので、キーワードをもとに検索するにはずいぶん時間がかかります。

では、ほかにどんな解決方法があるのか？もっとも楽な検索方法は、学術論文の書誌情報に関するデータベースをインターネット上でもしくは CD-ROM で検索することでしょう。本学の図書館も、最近、この点について改善されつつあります。英語学や英米文学の分野では、MLA (Modern Language Association of America) の CD-ROM が導入されましたし、国内の雑誌に載った論文であれば、館内の端末から「マガジンプラス」がネット上で検索できます。文献の検索は、こうして芋づるからネットワークへと、確かに大きく変わりました。

しかし、便利さを実感しつつ文献を集めた私の前にも、立ちほだかる壁がひとつ存在します。集めた文献は読まなきゃならない、という事実がそうです。たくさん集めると、たくさん読まなきゃいけないわけで、これはこれで大変です。知らない間に、机の周りに未読の文献が積み上げられていくことになります。どこかの国が地方自治体の財政赤字みたいなもので、どんどん増えます。なんだか、コピーをとると安心してしまいませんか。そこで、一句：

とり終えて 読んだ気になる コピーかな

やはり、文献というものは読まないと話になりません。こればかりは、今でも変わらないようです。



(本学助教授)

本学教員寄贈図書を紹介

2001年4月から2001年11月の間に本学の先生にご寄贈いただいた図書は次の通りです(受入日順・敬称略)。貴重な資料をありがとうございました。

氏名	書名	編著者名	出版社	出版年
田中悟	技術標準と競争：企業戦略と公共政策	土井教之編著	日本経済評論社	2001
木村榮一	ドン・キホーテの独り言	木村榮一著	岩波書店	2001
太田斎	常德方言志ほか 27冊			
辻本庸子	亀井俊介と読む古典アメリカ小説 12	アメリカ文学の古典を読む会編	南雲堂	2001
家入葉子	Negative Constructions in Middle English	Yoko Iyeiri	Kyushu University Press	2001
南隆太	Shakespeare and the Japanese stage	Sasayama, Mulryne, Shewring et al.	Cambridge University Press	1998
大島和夫	だれのための「司法改革」か：「司法制度改革審議会中間報告」の批判的検討	民主主義科学者協会法律部会編	日本評論社	2001
	高齢者の健康・介護・福祉を考える	大島和夫ほか著	自治体研究社	2001
L IIR コーリ	:		"	" 2001
	:		"	" 2001
菅山謙正	ことばの意味から文の姿を探る：英語語彙意味論の演習	菅山謙正編注	英宝社	2001
大塚秀之	現代アメリカ社会論：階級・人種・エスニシティからの分析	大塚秀之著	大月書店	2001
中島長文	ふくろうの声魯迅の近代 (平凡社選書 213)	中島長文著	平凡社	2001

卒業論文提出直前最終チェック

提出予定者の皆様へ。

卒業論文の提出を間近にひかえたこの時期、いかがお過ごしですか。

さて、論文を書く際には、一定の様式があるのをご存知ですね。あるいは、先生から指定されているかもしれません。時間をかけて書き上げた大切な論文も、体裁が正しく整えられていなければ、台無しになってしまいます。

また、表記の誤りのないように、読み返し、訂正する、という作業も必須です。

そんなときのチェックに役立つ参考文献をいくつか紹介します。請求記号を付しますので、図書館で手にとってご覧ください。それでは、健闘をお祈りします。

- ・論文としての様式は整えられていますか？
- ・注記や参照・引用文献の表記に誤りはありませんか？

論文作法について書かれた図書は多いのですが、下記の4冊は特によく借りられています。本来卒業論文を書く準備の段階から読むのをおすすめしたい内容ですが、提出直前のチェックにも役立ちます。請求記号「N816.5-」に類書がありますので、自分にあうものを探してみるのもいいと思います。

卒論を書こう：テーマ探しからスタイルまで / 榎木伸明著（三修社）

N816.5-4

卒論・ゼミ論の書き方 新版（早稲田大学出版部）

N816.5-7

学術論文の技法 第2版 / 斉藤孝著（日本エディタースクール出版部）

N816.5-12

論文・レポートのまとめ方（ちくま新書122） / 古郡廷治著（筑摩書房）

N081-23-122



- ・用字・用語は統一されていますか？
- ・誤って同音異義語を使っていませんか？
- ・漢字変換ミスによる誤字などはありませんか？

文章プロのための日本語表現活用辞典 / 中村明編 (明治書院)

N816.07-R-14 (閲覧のみ可)

論文中では漢字・かなの使い分け、送りがななどの表記については自分で基準を設けて統一する必要があります。このような辞典類は、似た用語の使い分けの参考にもなります。

- ・英語論文の作法に則って書かれていますか？
- ・句読法や略語は正しいですか？
- ・注記や参照・引用文献の表記に誤りはありませんか？

MLA 英語論文の手引き 第4版 / ジョゼフ・ジバルディ著 (北星堂書店)

N836.5-24

英語論文を書く際もっとも一般的な、MLA 様式のガイドです。巻末に卒業論文の体裁例があります。

MLA handbook for writers of research papers 5th edition / Joseph Gibaldi

N836.5-27

上記日本語版の原書5版。ネットワーク上の資料など電子メディアからの引用について、より詳細な指針が示されています。

A manual for writers : of term papers, thesis, and dissertations 5th edition

/ Kate L. Turabian

N836.5-19

シカゴ大学様式の手引書。MLA方式とのもっとも大きな違いは出典の表示方法です。日本語版「英語論文の書き方」はN836.5-13にあります。

- ・印刷後、文字化けを起こしていませんか？

図解でわかる文字コードのすべて / 清水哲郎著 (日本実業出版社)

N007.6-490

文字コードの解説書です。読めば応急的に文字化けへの処置ができる？外国語の入力方法についても記述があります。

「著作権」を知っていますか？

最近、複写室に新しく複写に関する注意事項が掲示されましたが、お気づきでしょうか。この掲示には、資料の複写をする際には「著作権法の範囲内で」行うように書かれています。では、著作権法の範囲とは、具体的には何でしょうか。

著作権法は、著作者の権利を守るために定められたものです。

人が自分の考えや気持ちを創作的に表現したとき、その成果物に対して著作権が発生します。これは、自分の作ったものをどのように使うかを、自分で決めることができる権利です。複製をする権利もここに含まれます。著作物を利用するときには、つまり図書や雑誌論文のコピーをとるときにも、著作権者に許諾を受ける必要があるのです。

しかし、利用するたびに許諾を受けたり、使用料を払ったりしなければならないのでは、著作物の流通を阻害する可能性があり、著作権者の権利保護という目的から外れてしまいます。のみならず、文化の発展にさえ影響を与えかねません。

そこで、例外的に許諾を受けずに複写を行うことが認められています。そのひとつが、図書館での資料の複写なのです。しかし当然図書館での複写を無制限に行うことを認めるものではなく、厳格なルールがあります。

著作権法第31条「図書館等における複製」の内容を要約したものが、前出の掲示に記載されています。

- ・ 図書館所蔵の資料であること
- ・ 調査・研究の目的であること
- ・ 公表された著作物の一部分であること
- ・ 一人につき一部であること

これらを守らずに複写をすることは、著作権の侵害となります。

図書館の職員は複写の一件毎について正しく行われているかどうかを確認しなければなりません。複写申込書を記入、提出してもらうのはそのためです。

誰もが著作者になる可能性を持っています。(たとえば、あなたの書く卒業論文は立派なあなたの著作です。)他の人の権利を損なうことのないように、著作権法の趣旨を理解し、その範囲内で複写を行いましょう。

INFORMATION

視聴覚ライブラリー

冬期休暇中の開館時間について

通常の期間と異なりますので、ご注意ください。

開館時間：午前9時30分～午後0時30分

午後1時30分～午後4時30分

閉館日：土、日曜日及び祝日

12月28日(金)～2002年1月6日(日) 年末年始



図書館

冬期休暇中の開館時間について

通常の期間と異なりますので、ご注意ください。

開館時間：午前9時～午後4時30分

ただし補講期間中は午後7時30分まで開館します。

12月20日(木) 館内整理日は午後5時から開館します。

閉館日：土、日曜日及び祝日

12月28日(金)～2002年1月6日(日) 年末年始



* 詳しくは図書館ホームページ、図書館内掲示板の開館カレンダーをご覧ください。

カウンターにも用意しています。

冬期休暇中の長期貸出について

実施期間：12月3日(月)～12月27日(木)

所属	冊数	返却期限
1,2回生	7冊まで	2002年 1月11日(金)
3,4回生	10冊まで	
院生	20冊まで	

* 院生は12月15日(土)以降の貸出分の返却日は4週間後になります。



神戸市図書館情報ネットワークが表彰を受けました

今年1月から稼働している本館の新図書館システムが、このたび、財団法人地方自治情報センターから、「地方公共団体優秀情報処理システム」として表彰されました。これは、全国の地方公共団体が自主開発したシステムで、先進的、独創性、効果性等に優れたシステムに対して表彰されるものです。今後とも、利用者の方々に使いやすいシステムとして機能向上を図っていきたいと考えております。

編集後記

ウンベルト・エコはその『論文作法』（而立書房）のなかで、学位取得後も論文は役に立つのかと問い、その作成の意味として（１）具体的なテーマを探し出す（２）当のテーマに関する資料を収集する（３）これらの資料をきちんと整理する（４）収集した資料に照らして、テーマをゼロから検討し直す（５）先行の諸考察全体に有機的な形を付与する（６）論文を読む者がそこに書かれている意味を理解できるように、またできれば、読み手が自らそのテーマを再考するために同じ資料を繙くことが出来るようにする事があると述べて、それは一種の方法論的作業であり、それゆえに論文のテーマはこれに要する作業ほどには重要ではないことを強調しています。

卒業論文にともなう様々な困難を味わうなかで、その作成の意味について疑問を抱いた人がいるかもしれません、しかしたとえ小さくともある種の「方法的制覇」をこの過程から学ぶことが、おそらく社会に出てから大きな力となるであろうことを疑うことは出来ません。

図書館の役割の最も大きなものの一つが、こうした有意義な試みを援助することであり、今後もそのための努力を続けていきたいと考えています。

編集責任者：図書館事務長 牛原秀治



AD ALTIORA SEMPER No.15
神戸市外国語大学図書館報

編集・発行：神戸市外国語大学図書館
〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1
TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257
E-MAIL：info@lib.kobe-cufs.ac.jp
URL：http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/

2001年12月14日発行

発行責任者：図書館長 大塚秀之
